

2012年度は、薬学部6年生卒業の新卒者を迎え入れ、1名増員となる薬剤師5名、事務員2名、計7名のスタッフでスタートした。増員に伴い、薬剤師がより専門的な業務にシフトできるよう体制強化に努めていたが、残念ながら年度途中1名退職となり下半期は前年同様の薬剤師4名体制と非常に厳しい環境での活動となった。幸い年度末の3月に薬剤師経験者1名を採用することができ、2013年度に向けて明るい兆しが見えてきた。このように人員の安定しない2012年度ではあったが、リスク管理を最優先課題と捉え、密な連携と情報共有の徹底を図り、医薬品の専門化として最低限の使命は果たすことができたものと考えている。

1. 人材育成

薬剤師1名増員とはなったが、少人数体制での活動のため、新卒薬剤師をいかに早く成長させるかが鍵となる。そこで、ベテラン薬剤師によるマンツーマンに近い指導体制を構築し、より多くの経験を積ませ、悩み、考え、学び、行動できるよう育成に取組み、下半期には数多くの業務を任せられることができる薬剤師にまで成長させることができた。また2010年度以来となる薬学部生の実習受け入れを行い、薬剤師のあるべき姿を間近で見てもらいながら、地域医療に携わる薬剤師の存在意義を感じてもらうことができたものと考えている。加えて、各薬剤師の指導能力も磨くことができ、双方の成長に十二分に寄与できた2.5ヵ月間の実務実習であった。

2. がん化学療法における抗がん剤の無菌調製

2011年12月より開始し、済生会熊本病院の協力による無菌調製の実施研修等々も行い、現在では4名の薬剤師が従事できるようになった。2012年度は1年を通して、入院・外来を問わず、全ての抗がん剤の無菌調製(全346件)を行い、医師の業務負担軽減に大いに貢献できたと考える。今後は、特に外来施行の患者さんへの薬剤管理指導が実施できるよう各自の能力アップとともに体制強化に努めていきたい。また、中心静脈栄養の無菌調製も実施できるよう体制構築行っていく。

	2012年度	2011年度
抗がん剤無菌調製(件数)	346	62

(2011年12月より実施)

3. 看護師への「医薬品ミニレクチャー」開催

2012年度も、薬剤師が病棟および外来に出向き看護師に対してスモールグループで医薬品に関するミニレクチャーを実施(年5回実施)。ポイントを絞ってA4用紙2枚程度にまとめ、疑問等に対してもその場で回答し、より効果的に理解を深めることができたと考える。また、今回、ミニレクチャーに関して看護師にアンケートを実施した結果、非常に好評であり、2013年度も継続実施し、開催回数を増やしていくとともに、効果的なレクチャーができるよう努めていく。

4. 医薬品情報データベースの有効活用

2011年度に構築した医薬品情報データベースの認知度も高まり、医師、看護師、薬剤師をはじめとするスタッフが、いつでも、どこからでも医薬品に関する情報を確認できるようデータベースの改訂・更新を適宜行った。医薬品ミニレクチャー資料等をはじめ、看護師向け情報、院内・外発生の副作用・安全性情報、がん化学療法レジメン、研修会案内等々、医薬品に関する情報を集約し、情報の共有化・一元化に努めた。今後も安全な医薬品の提供に、多方面からサポートできるよう取り組んでいく。

5. 外来および入院対応

外来調剤に要する業務量は年々増加しており、2012年度も薬局の中心業務であった。特に高齢者の多い地域でもあり、薬の一包化調剤も増え業務量は増大している。このような状況でも、電子カルテを活用しながら、患者さんが理解しやすいような言葉での服薬指導を心がけ、常に対話を意識し信頼関係の構築に努めることができたと考える。病棟においても、薬剤師不足の状況下、限られた時間内での活動であるため、チーム医療を常に意識し、病棟スタッフとの連携をうまく行いながら、患者さんに安心して安全な医療を提供できるよう努めた。また、医師の処方支援をはじめ、薬歴管理、禁忌薬管理、カルテ記録等々、一元化されたデータの効率運用にも努め、電子カルテの有効活用を推進。NST回診、ICT回診、緩和ケア回診、DM教室等々へも参加し、求められているチーム医療に貢献できたものと考えている。また、持参薬の鑑別・管理・運用について、2012年度も積極的に関わることができ安全管理に貢献できたものと考えている。

	2012年度
一包化調剤(件数)	2,388(外来)
薬剤鑑別(件数)	831

6. 医薬品管理

2012年度も、在庫管理システムを効率よく活用しながら適正な在庫管理に努めるとともに、期限切れ医薬品の低減にも力を注いだ。これら医薬品管理については事務スタッフの貢献度が非常に高く、薬局に必要な不可欠な存在である。

2013年度は、本来薬剤師6名体制で活動開始予定であったが、残念ながら1名欠員でのスタートとなる予定で、「病棟薬剤師業務実加法算」の算定は見送ることとなった。スタッフ不足は地域医療が抱える大きな問題の一つではあるが、チーム医療を柱に「協働」で、この難関を乗り越え、2013年度も、医薬品のエキスパートとして、病院全体の安全管理に大いに貢献できるよう取り組んでいきたい。